

2023 秋 筑波山麓ウォーキング NPO 法人つくば日中協会・筑波大学中国留学生学友会

中国では「1 (人)」が並ぶことから独身の日 (光棍節) とも呼ばれる 11 月 11 日。つくば日中協会会員と筑波大学の中国人留学生、併せて 69 名が集まり、秋の恒例イベント「筑波山麓ウォーキング」が開催された。



スタート地点はつくば道近くの市営神郡駐車場。唐理事長が挨拶してから、川村理事は参加者におにぎりとおみかん、飲物が配られ、スズメバチやマムシなどに遭遇した時の対応や、遠藤理事が行程について説明がなされた。9 時 20 分、曾監事と道に詳しい青木副理事長を先頭に、最初の目的地・筑波山神社を目指し、駐車場を出発した。



西へ進み、信号を右折すると、道の先に筑波山の双峰が現れ、参加者テンションをあげてくれる。収穫の終わった田んぼの間を抜けると、古い民家が立ち並ぶ。鮎川邸など「観光協力の家」として観光客にトイレを貸してくれる家もある。趣深い「つくば道」は地域住民によって守られているのだ。六丁目の



鳥居 (一ノ鳥居) を過ぎてさらに進むと、「つくば道の三叉路」で道が分かれる。本通りを進むと見どころの一つ、昭和 14 年に建てられた旧筑波山郵便局がある。風情のある石段を登り、10 時 20 分、筑波山神社に到着した。七五三祝いの参拝客が多く、ガマの油売り口上の実演もされ、大変にぎわっていた。留学生にとっては、日本文化に触れ、良い記念になったと思われる。11 時に神社前で記念撮影をして、出発。40 分ほどで筑波ふれあいの里に到着。

ふれあいの里では、最初に配られたおにぎりで昼食を摂り、参加者同士の交流会を行った。留学生学友会幹部や日中協会役員が自己紹介をし、学友会が準備したジェスチャーによる連想ゲームを楽しんだ。また、唐理事長はじめ、のど自慢の参加者たちのパフォーマンスが披露され、特に最年少 5 歳の男子の歌で、疲れは吹き飛び、みんなが笑顔になった。



13時30分、交流会が終わるとふれあいの里を出発。神郡駐車場を目指し、道を南へ下っていく。一の堰跡を過ぎて右折し、しばらく行くと右手に筑波山が大きく見える。ここで筑波山を背景に、この日最後の記念写真を撮影。参加者の後ろに筑波山が、映える。

いつも仕事や学業に追われている参加者にとって、つくばの自然を感じることができ、日ごろ接点のない人たちとのふれあえる場となった。



作成：遠藤、由布

編集：唐